

ELECOM**CR-UK3**

ソフトウェアユーザーズガイド

はじめに

このたびは USB キー CR-UK3 をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本ソフトウェアユーザーズガイドでは、CR-UK3 を利用した機能の説明や利用方法について説明しています。あらかじめクイックセットアップを参照して、USB キーのドライバと G-Lock のインストールとシリアル番号の入力を行い、USB キーが利用できる状態にしたうえで読みください。

シリアル番号とパスワードは忘れないようにしてください

ドライバのインストール時に入力したシリアル番号と設定したパスワードは忘れないようにしてください。

同じ製品(USB キー)であっても、シリアル番号とパスワードが異なる場合、G-Lock は異なる USB キーであると判断します。そのため、ロック機能が有効中の場合は、新しい USB キーを購入してもロックが解除できません

もくじ

はじめに	1
もくじ	2
USBキーで使えるセキュリティー機能	3
シリアル番号とパスワードは忘れないようにしてください	4
G-Lockを操作するには、Administrator権限が必要です	4
バーチャルディスク機能を使う	5
仮想のドライブを作成するには	6
ドライブを変更するには	8
ドライブを削除するには	9
ドライブをバックアップするには	10
ドライブをリストアするには	11
WebロックやPCロック機能を使う	13
ログオン機能を使う	15
ログオフ機能を使う	18
ログを表示する	20
主要キー機能を使う	21
制限できる機能	21
主要キー機能の利用例	22
主要キー機能を使う	23
G-Lockのバージョンを表示する	26
合鍵をつくるには	27
G-Lockをアンインストールする	28
こまったときは	29

USB キーで使えるセキュリティ機能

USB キーで利用できるセキュリティ機能には、次のものがあります。



USB キーを設定するときは、Administrator の権限を持つユーザーでログインしてください。

■バーチャルディスク機能

USB キーをパソコンに接続している間だけ、あらかじめハードディスクで作成しておいた仮想のドライブを使用することができます。

USB キーをパソコンから取り外すとドライブは表示されません。



バーチャルディスク機能のドライブは、USB キー本体にファイルが保存されるわけではありません。ハードディスク上に暗号化されたエリア(ドライブのイメージファイル)を作成しておき、USB キーを接続したときのみドライブとして表示しアクセスできるようにします。



ハードディスク上に作成されたドライブのイメージファイルを削除すると、ドライブに保存されていたデータも失われます。ハードディスクをフォーマットするときなどに誤って消してしまわないように注意してください。イメージファイルをコピーすることでドライブをバックアップすることもできます。

■Web ロック機能

USB キーをパソコンから取り外すと InternetExplorer(6.0 かそれより新しいバージョン)を一時的にロックして利用できなくします。

Internet Explorer を実行しようとする、「Access Denied」とロックしている旨のエラー画面を表示します。

Internet Explorer 5.0(それより古いバージョンも含む)および Internet Explorer 以外の web ブラウザにはロックがかかりません。



■PC ロック機能

USB キーをパソコンから取り外すとすぐにスクリーンセーバーが起動し、何も操作を受け付けません。再び USB キーをパソコンに接続すると、スクリーンセーバーが解除されます。

PC ロックを有効にし、さらに USB キーを接続していない状態でパソコンを起動すると、パソコン起動後すぐにスクリーンセーバーが起動します。

■主要キー機能

複数の USB キーを利用して運用する場合に設定します。

特定の USB キーを管理者用のキー(主要キー)として設定し、その他の USB キーの動作を制御します。

例えば学校などで USB キーを運用する場合、先生が管理者用の USB キーを 1 つ所持し、生徒も USB キーを持ちます。生徒が持つ USB キーは管理者用 USB キーの設定により、あらかじめ許可された機能のみ利用できます。

■ログ表示機能

USB キーを利用したログイン/ログアウトのログを表示します。

ログの表示には、自動ログイン機能を有効にしてください。

■自動ログイン機能

USB キーをアカウント入力待ち状態のパソコンに取り付けると、あらかじめ設定しておいたユーザーアカウントで Windows にログインします。

■自動ログオフ機能

USB キーをパソコンから取り外すと、自動的にログオフし、パソコンはログオンの入力待ち状態になります。

シリアル番号とパスワードは忘れないようにしてください

ドライバのインストール時に入力したシリアル番号と設定したパスワードは忘れないようにしてください。

同じ製品(USB キー)であっても、シリアル番号とパスワードが異なる場合、G-Lock は異なる USB キーであると判断します。そのため、ロック機能が有効中の場合は、新しい USB キーを購入してもロックが解除できません。

USB キーをなくしてしまったり、合鍵を作ることで複数の人数で USB キーを有効にしたいときなど、同じ機能を持つ USB キーを複製できます。USB キーを複製するにはシリアル番号とパスワードが必要です。必ず忘れないようにしてください。

USB キーを複製する方法については、「合鍵をつくるには」を参照してください。



シリアル番号やパスワードをメモした場合、メモした内容を第 3 者に知られないようにしてください。シリアル番号とパスワードを知られてしまうと、知らない間に合鍵を作製されてしまいます。

G-Lock を操作するには、Administrator 権限が必要です

G-Lock を操作するには、Administrator 権限を持ったユーザーでパソコンにログオンしておく必要があります。

Administrator とは...

Administrator とは、アドミニストレータと読み、パソコンの管理者(権限)のことを指します。

パソコンのファイルを削除したり、新しい周辺機器をパソコンに追加するときにドライバをインストールするなど、さまざまな権限が付与されています。

Administrator 以外の制限された権限が設定されているユーザーでは、G-Lock が操作できないことはもちろん、周辺機器のインストールができません。G-Lock を操作するには、Administrator 権限を持ったユーザーでパソコンにログオンしておく必要があります。

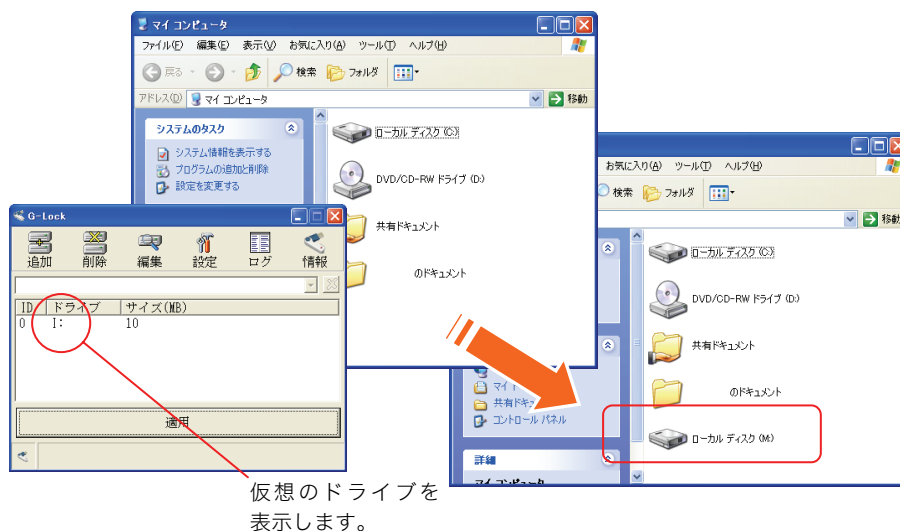


日常的に操作するユーザーを Administrator 権限を持つユーザーに設定しておくと、使用するパソコンに対して、制限なくいつでもどのようにでも設定変更が可能になります。便利なのですが、離席中に第 3 者がパソコンを操作して悪用するなどのリスクが発生します。

バーチャルディスク機能を使う

USB キーをパソコンに接続している間だけ、あらかじめハードディスクで作成しておいた仮想のドライブを使用することができます。

USB キーをパソコンから取り外すとドライブは表示されません。



バーチャルディスク機能のドライブは、USB キー本体にファイルが保存されるわけではありません。ハードディスク上に暗号化されたエリア(ドライブのイメージファイル)を作成しておき、USB キーを接続したときのみドライブとして表示しアクセスできるようにします。



重要なデータは必ずバックアップしてください。

ハードディスク上に作成されたドライブのイメージファイルを削除すると、ドライブに保存されていたデータも失われます。ハードディスクをフォーマットするときなどに誤って消してしまわないように注意してください。イメージファイルをコピーすることでドライブをバックアップすることもできます。

イメージファイルの一部分でも破損すると、ドライブに含まれているすべてのファイルにアクセスできなくなります。実際のハードディスクの場合は、ドライブに含まれる一部のファイルが壊れると一部のファイルのみアクセスできなくなりますが、バーチャルディスクはひとつのファイルの中にドライブの内容が保存されるため、一部でも破損するとドライブ全体にアクセスできなくなります。重要なファイルはバーチャルディスクに保存しないか、またはバーチャルディスクのイメージファイルをこまめにバックアップしてください。



複数のアカウントで同じバーチャルディスクを使用する場合は、他のアカウントがアクセスできるフォルダに配慮して、イメージファイルを作成してください。

現在使用中のアカウントでアクセスできていても、他のアカウントでアクセスできない場合は、イメージファイルを使用できません。

仮想のドライブを作成するには

USB キーを接続している間だけ使用できる仮想のドライブをハードディスク上に作成します。複数のドライブを作成できます。

USB キーをパソコンから取り外すとドライブは表示されません。



Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindowsにログオンしてください。



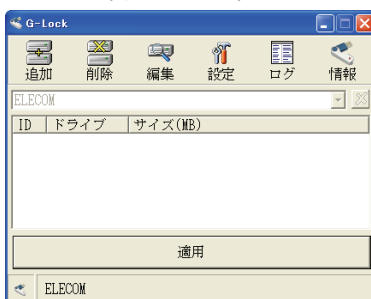
複数のアカウントで同じバーチャルディスクを使用する場合は、他のアカウントがアクセスできるフォルダに配慮して、イメージファイルを作成してください。

現在使用中のアカウントでアクセスできていても、他のアカウントでアクセスできない場合は、イメージファイルを使用できません。

1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。

2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。

G-Lock が表示されます。

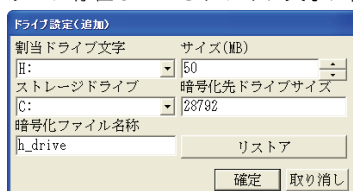


3 ボタンをクリックします。

ドライブを追加する画面が表示されます。

4 新しく作成する仮想のドライブの設定を入力します。

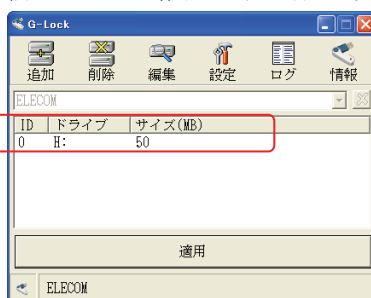
すでに存在しているドライブ文字は使用できません。



リストア ボタンは、あらかじめバックアップしておいた仮想のドライブファイルを復元するときに利用します。

5 **確定** ボタンをクリックします。

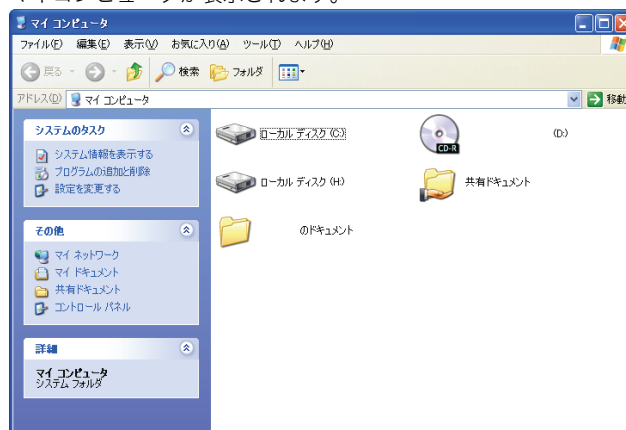
仮想ドライブが作成され、手順 2 で表示された画面に戻ります。



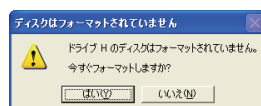
6 適用 ボタンをクリックします。

G-Lock を閉じます。

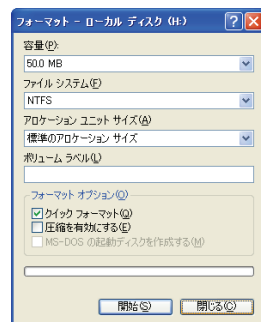
7 WindowsXPをお使いの方は「スタート」メニューマイコンピュータをクリックします。Windows2000 やWindowsMeおよびWindows98 をお使いの場合はデスクトップにあるマイコンピュータをダブルクリックします。マイコンピュータが表示されます。



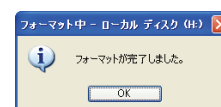
8 手順4 で作成したドライブをダブルクリックします。フォーマットをしてよいか確認の画面が表示されます。



9 フォーマットを実行してください。フォーマット後、ドライブを使用できます。



WindowsXP の場合



ドライブのフォーマットは、ドライブを作成した最初の 1 回目のみ必要です。

ドライブを変更するには

作成済みの仮想ドライブのドライブ文字を変更できます。容量などは変更できません。

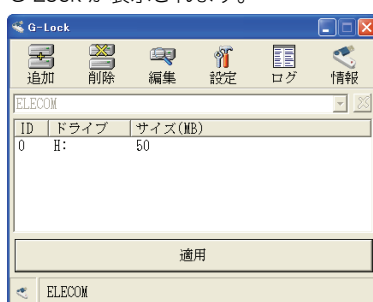


Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindowsにログオンしてください。

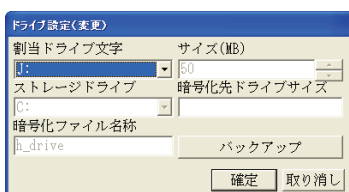


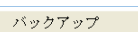
ドライブ文字の変更の場合、フォーマットは必要ありません。また、ドライブに保存されているファイルも失われません。

- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。

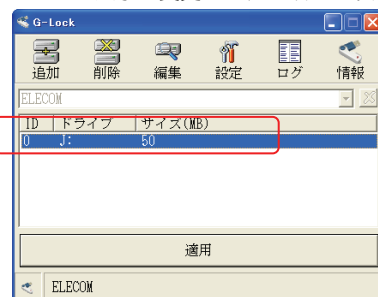


- 3 変更するドライブを選択し、 ボタンをクリックします。
ドライブを変更する画面が表示されます。
- 4 割り当てるドライブ文字を選択します。
すでに存在しているドライブ文字は使用できません。



 ボタンは、ドライブをバックアップするときに利用します。

- 5  ボタンをクリックします。
ドライブ文字が変更され、手順 2 で表示された画面に戻ります。



- 6  ボタンをクリックします。
G-Lock を閉じます。

ドライブを削除するには

作成済みの仮想ドライブを削除します。

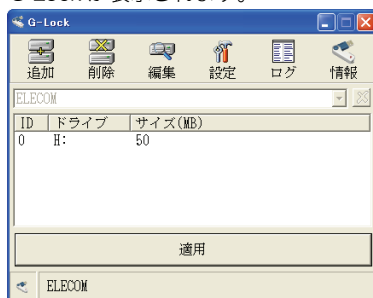


- ・ Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindows にログオンしてください。
- ・ ドライブを削除すると、ドライブに保存されていたデータも削除されます。必要なファイルはあらかじめコピーしておくなどバックアップしてください。

1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。

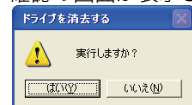
2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。

G-Lock が表示されます。



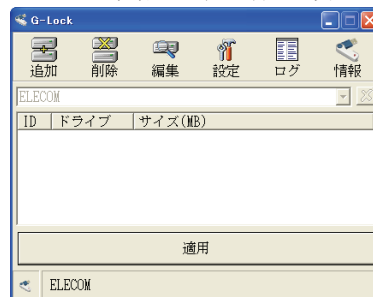
3 削除するドライブを選択し、 ボタンをクリックします。

確認の画面が表示されます。



4  ボタンをクリックします。

ドライブが削除され、手順 2 で表示された画面に戻ります。



5  ボタンをクリックします。

G-Lock を閉じます。

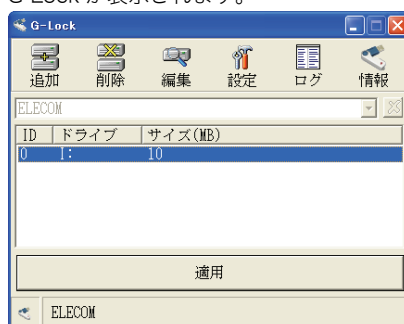
ドライブをバックアップするには

仮想ドライブを単一のファイルとして保存し、別メディアに保存してバックアップします。バックアップファイル(G-Lock イメージファイル)は拡張子 img のファイルです。リストア(戻す)するときに利用します。

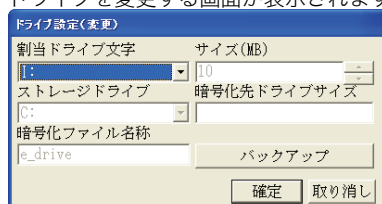


- ・ Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindows にログオンしてください。
- ・ バックアップファイルのリストアには、バックアップ時と同じ USB キーが必要です。

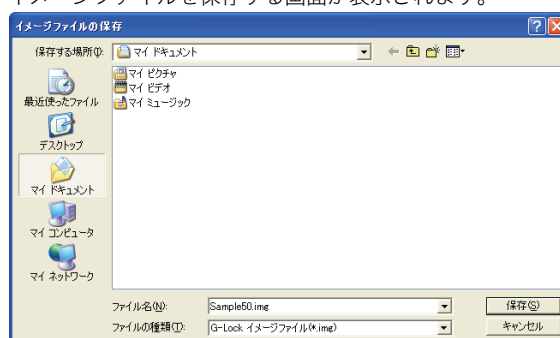
- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



- 3 バックアップするドライブを選択し、 ボタンをクリックします。
ドライブを変更する画面が表示されます。



- 4  ボタンをクリックします。
イメージファイルを保存する画面が表示されます。



- 5 ファイルを保存する場所とファイル名を入力し、 ボタンをクリックします。
手順 3 で表示された画面に戻ります。
- 6  ボタンをクリックします。
手順 2 で表示された画面に戻ります。
- 7  ボタンをクリックします。
G-Lock を閉じます。

ドライブをリストアするには

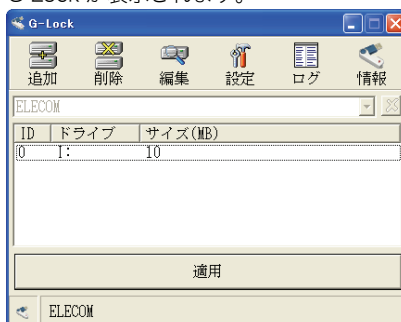
バックアップした仮想ドライブのバックアップファイル(G-Lock イメージファイル)をリストア(戻す)します。



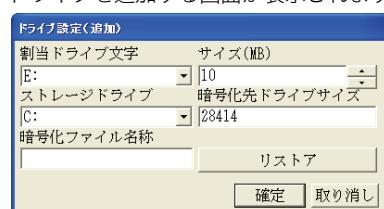
- ・ Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindows にログオンしてください。
- ・ バックアップファイルのリストアには、バックアップ時と同じ USB キーが必要です。

1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。

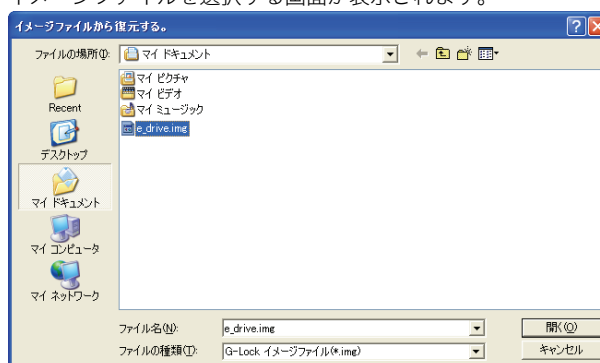
2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



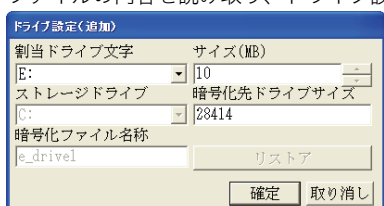
3 ボタンをクリックします。
ドライブを追加する画面が表示されます。



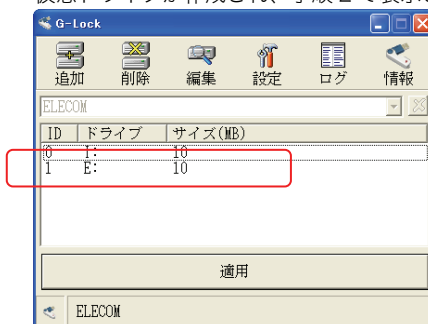
4 ボタンをクリックします。
イメージファイルを選択する画面が表示されます。



5 リストアしたファイルを選択し、 ボタンをクリックします。
ファイルの内容を読み取り、ドライブ設定の画面に反映します。



- 6** 割り当てるドライブ文字を選択し、**確定** ボタンをクリックします。
仮想ドライブが作成され、手順 2 で表示された画面に戻ります。



復元された仮想ドライブは、バックアップしたファイルの内容を再現しています。再びフォーマットなどの作業を行う必要はありません。

- 7** **適用** ボタンをクリックします。
G-Lock を閉じます。

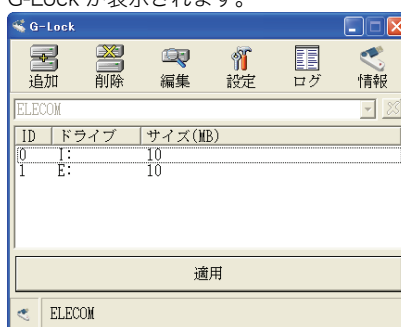
Web ロックや PC ロック機能を使う

USB キーをパソコンから取り外したときに、パソコンをロックして他人の操作を防ぎます。ロック機能には、インターネットの接続をロックする Web ロック(インターネットの禁止)機能と、パソコンをスクリーンセーバーにして操作を受け付けなくする PC ロック機能があります。

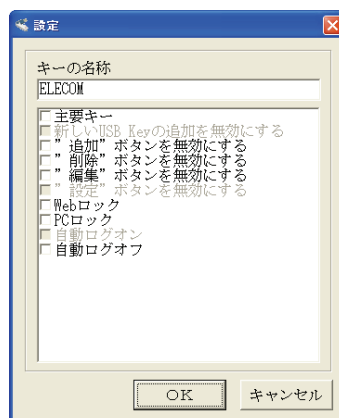


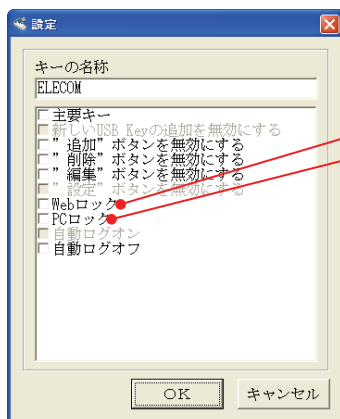
Windows®XP/2000 の場合は、管理者 (Administrator) 権限を持つユーザアカウントで Windows にログオンしてください。

- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



- 3  ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。





4 利用したい機能に応じて、「Webロック」チェックボックスや「PCロック」チェックボックスをチェックします。

Web ロックの機能を有効にします。

PC ロックの機能を有効にします。

インターネットの利用を禁止

USB キーをパソコンから取り外すと InternetExplore(6.0 かそれより新しいバージョン)を一時的にロックして利用できなくします。Internet Explorer を実行しようとする、「Access Denied」とロックしている旨のエラー画面を表示します。Internet Explorer 5.0(それより古いバージョンも含む)および Internet Explorer 以外の web ブラウザにはロックがかかりません。

PC ロック

USB キーをパソコンから取り外すとすぐにスクリーンセーバーが起動し、何も操作を受け付けません。再び USB キーをパソコンに接続すると、スクリーンセーバーが解除されます。PC ロックを有効にし、さらに USB キーを接続していない状態でパソコンを起動すると、パソコン起動後すぐにスクリーンセーバーが起動します。

5 ボタンをクリックします。

手順 2 の画面に戻ります。

6 ボタンをクリックします。

G-Lock の画面が閉じ、設定を有効にします。



- ・ PC ロック機能を有効にした場合で、USB キーを接続せずにパソコンを起動すると、起動後はすぐにスクリーンセーバーの状態になります。
- ・ スクリーンセーバーの種類は、コントロールパネルにある画面のプロパティのスクリーンセーバータブで変更することができます。

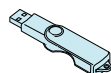


WindowsXP のスクリーンセーバー設定例

- ・ 設定を無効にしたい場合は、チェックボックスのチェックを外してください。

ログオン機能を使う

ログオン機能を有効にすると、Windows のログオン画面で USB キーをパソコンに接続すると、あらかじめ設定しておいたユーザーで自動的にログオンします。



マイコンピュータ

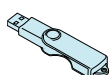
あらかじめ設定された
ユーザーでログオンし
ます。

ログオン機能を利用して高度なセキュリティも可能です。

例えば、先生が主要キーを持ち、生徒(またはグループ)には USB を渡します。生徒に渡した USB キーにはあらかじめログオンできるユーザーアカウントを設定します。1 台の共有パソコンがあり、Windows を起動してログオン待ちの状態にしておきます。USB キーを接続すると自動的にログオンします。パスワードなどは入力が必要ありません。パスワードを伝えて共有するわけではありませんのでパスワード漏洩の心配がなく、USB キーを使用しない場合とくらべて高いセキュリティを確保できます。

またログ機能や自動ログオフ機能と組み合わせることで、USB キーをパソコンから取り外すと自動ログオフし(自動ログオフ機能)、万が一トラブルが起きたときでもどのユーザーアカウントで問題が発生したか(どの USB キーを取り付けていたかログを見るとわかります)トラブル解決の手助け(ログ機能)となります。

さらに、主要キーと配下の USB キー以外のログオンを禁止したい場合は、PC ロック機能を有効にしてください。未設定の USB キーや USB キーなしの場合、パソコン使用ができなくなります。Windows にはログオンできますが、ログオン後すぐにスクリーンセーバー状態になりますので操作できません



主要キー

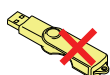


配下の USB キー

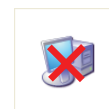


マイコンピュータ

あらかじめ設定された
ユーザーでログオンし
ます。



未設定の USB キー
USB キーがない場合



マイコンピュータ

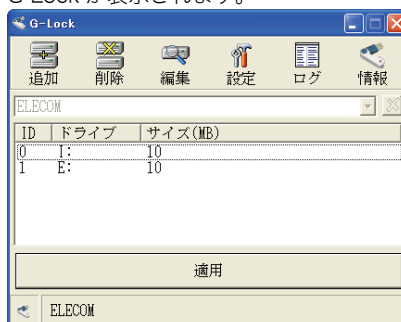
ユーザーアカウント名およびパスワードを入力するとログオンできます。部外者のログオンを禁止したい場合は、PC ロックを有効にすることで、未設定の USB キーや USB キーなしのパソコン使用をシャットアウトできます。(ログオンできますが、ログオン後すぐにスクリーンセーバー状態になりますので操作できません)

USB キーをパソコンから取り外すと、自動的にログオフし、パソコンはログインの入力待ち状態になります。

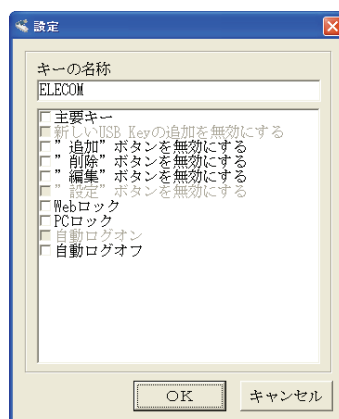


Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindowsにログオンしてください。

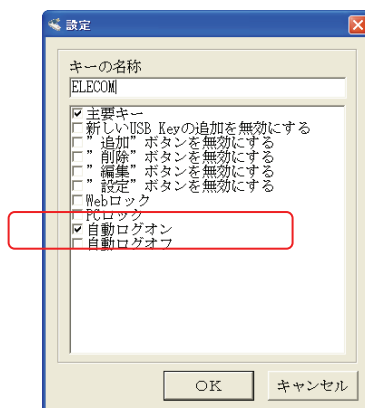
- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



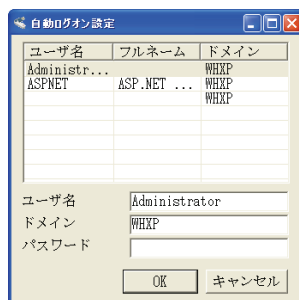
- 3  ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。



- 4 「主要キー」と「自動ログオン」チェックボックスをチェックします。
「自動ログオン」チェックボックスをチェックすると、自動ログイン設定画面が表示されます。



- 5** リストからログインするユーザーアカウントを選択し、パスワードを入力します。



- 6**  ボタンをクリックします。
手順 4 の画面に戻ります。

- 7**  ボタンをクリックします。
手順 2 の画面に戻ります。

- 8**  ボタンをクリックします。
G-Lock の画面が閉じ、設定を有効にします。



設定を無効にしたい場合は、「自動ログオン」チェックボックスのチェックを外してください。

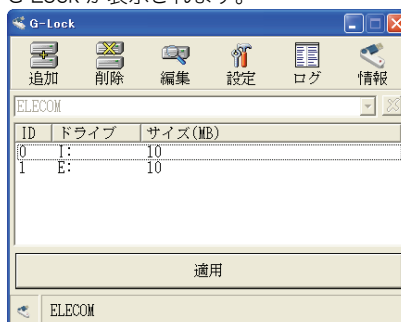
ログオフ機能を使う

USB キーをパソコンから取り外すと、自動的にログオフし、パソコンはログインの入力待ち状態になります。

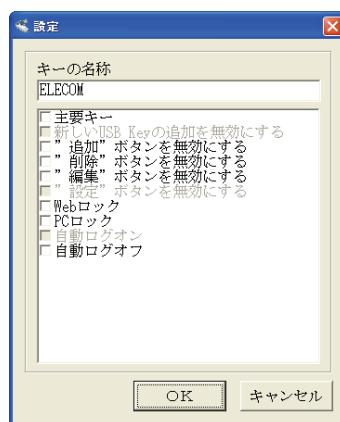


Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindowsにログオンしてください。

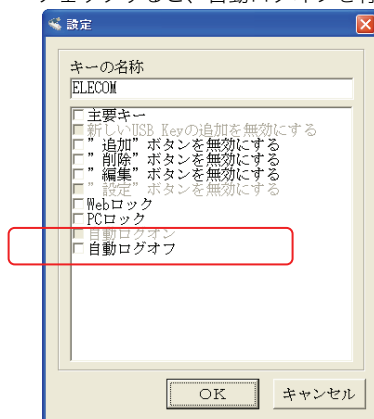
- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



- 3  ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。



- 4** 「自動ログオフ」チェックボックスをチェックします。
チェックすると、自動ログオフを有効にします。



- 5** **OK** ボタンをクリックします。
手順 2 の画面に戻ります。

- 6** **適用** ボタンをクリックします。
G-Lock の画面が閉じ、設定を有効にします。



設定を無効にしたい場合は、「自動ログオフ」チェックボックスのチェックを外してください。

ログを表示する

USB キーを利用したログイン/ログアウトのログを表示します。

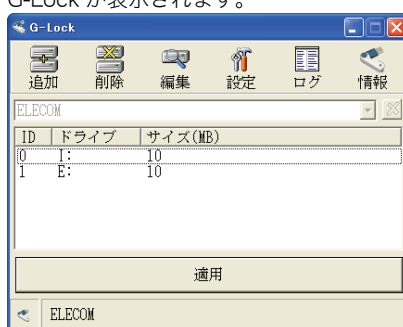


- ・ Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindows にログオンしてください。
- ・ ログを記録するには、ログオン機能を有効にしてください。



ログは保存できません。

- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



- 3  ボタンをクリックします。

ログが表示されます。



種類 ログインやログアウトの種類を表示します。

日付 いつおこなわれたか日付を表示します。

時間 いつおこなわれた時間を表示します。

ユーザ名 どのユーザー(Windows のユーザアカウント)がおこなったかを表示します。

キー名称 使用された USB キーの名前を表示します。USB キーに名前が付けられていない場合は空欄になります。

 ボタン

 ボタンをクリックすると、表示されているログを消去します。

- 4  ボタンをクリックします。

手順 2 の画面に戻ります。

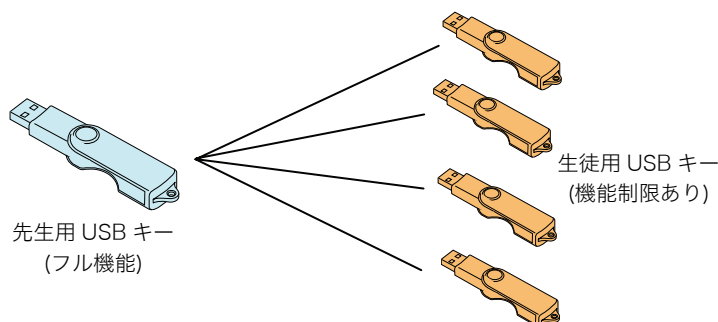
- 5  ボタンをクリックします。

G-Lock の画面が閉じ、設定を有効にします。

主要キー機能を使う

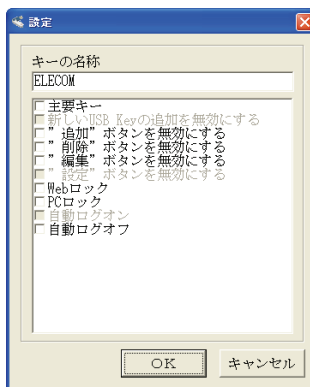
特定の USB キーを管理者用のキー(主要キー)として設定し、その他の USB キーの動作を制御します。複数の USB キーを利用して運用する場合に使用します。

例えば学校などで USB キーを運用する場合、先生が管理者用の USB キーを 1 つ所持し、生徒も USB キーを持ちます。生徒が持つ USB キーは管理者用 USB キーの設定により、あらかじめ許可された機能のみ利用できます。

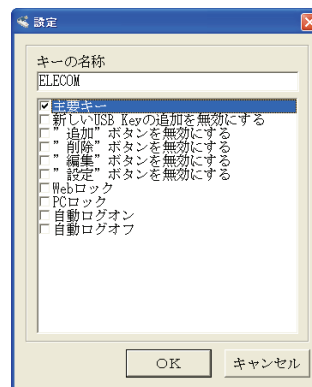


制限できる機能

次の内容を、設定画面の主要な設定から設定できます。



主要キー機能が無効のとき

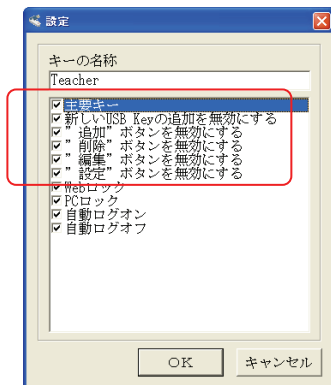


主要キー機能が有効のとき

主要キー	現在使用している USB キーを主要キーとして設定し、主要キー機能を有効にします。
新しい USB Key の追加を無効にする	USB キーの増設を禁止します。 主要キー機能を有効にしている場合のみ設定できます。
追加ボタンを無効にする	バーチャルディスク機能のうち、仮想ドライブの追加を禁止します。
削除ボタンを無効にする	バーチャルディスク機能のうち、仮想ドライブの削除を禁止します。
作成ボタンを無効にする	バーチャルディスク機能のうち、仮想ドライブの変更を禁止します。
設定ボタンを無効にする	設定画面を表示できなくします。 主要キー機能を有効にしている場合のみ設定できます。
自動ログオン	ログオン画面で、USB キーをパソコンに接続すると、あらかじめ設定しておいたユーザーで自動的にログインします。 主要キー機能を有効にしている場合のみ設定できます。

主要キー機能の利用例

設定を工夫することで、いろいろな利用方法が考えられます。
下記は利用例です。

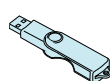


■先生のみ仮想ドライブを利用する

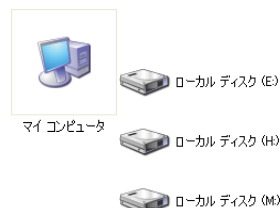
先生のみが仮想ドライブを利用してドライブを作成し、そのドライブには他人に見られない資料などを保存します。

先生が使用する USB キーがパソコンに接続されている場合のみ仮想ドライブが表示されますので、他の USB キーを使用している生徒にはドライブは見ることができません。

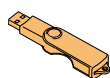
さらに PC ロック機能を有効にしているため、第三者が勝手にパソコンを使用できません。



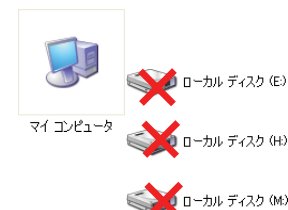
主要キーの場合



仮想ドライブが表示されます。



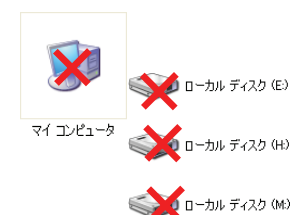
他の USB キーの場合



仮想ドライブは表示されません。



USB キーがない場合



パソコンを操作できません。

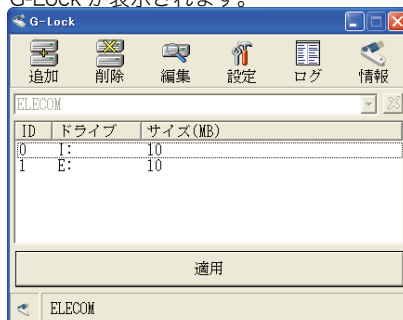
主要キー機能を使う

次の手順で主要キー機能を設定するための主要な設定を表示します。

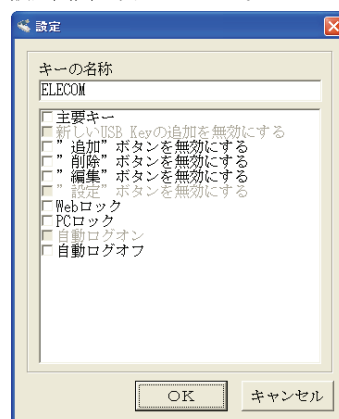


Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindowsにログオンしてください。

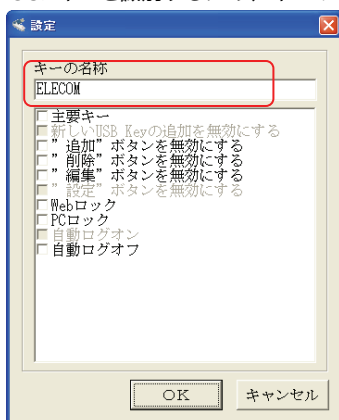
- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



- 3  ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。

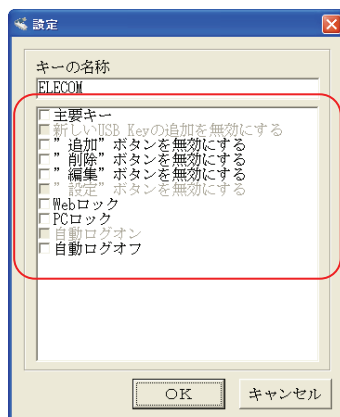


- 4 USBキーを識別するため、キーの名称を入力します。



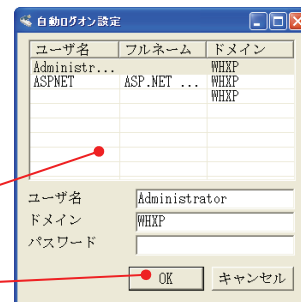
キー名称には半角英数字以外に漢字も入力できます。

5 制限するチェックボックスをチェックします。



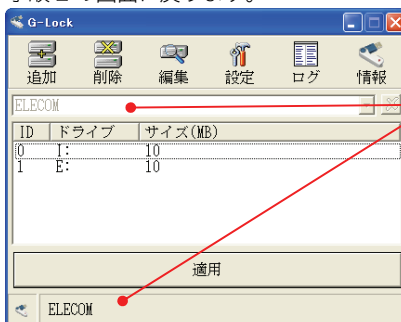
主要キー機能を有効にしている場合のみ設定できる項目があります。その場合は、「主要キー」チェックボックスをチェックしてから選択してください。

主要キー	現在使用している USB キーを主要キーとして設定し、主要キー機能を有効にします。
新しい USB Key の追加を無効にする	USB キーの増設を禁止します。 主要キー機能を有効にしている場合のみ設定できます。
追加ボタンを無効にする	バーチャルディスク機能のうち、仮想ドライブの追加を禁止します。
削除ボタンを無効にする	バーチャルディスク機能のうち、仮想ドライブの削除を禁止します。
作成ボタンを無効にする	バーチャルディスク機能のうち、仮想ドライブの変更を禁止します。
設定ボタンを無効にする	設定画面を表示できなくします。 主要キー機能を有効にしている場合のみ設定できます。
自動ログオン	ログオン画面で、USB キーをパソコンに接続すると、あらかじめ設定しておいたユーザーで自動的にログインします。 主要キー機能を有効にしている場合のみ設定できます。 「自動ログオン」チェックボックスをチェックすると、自動ログイン設定画面が表示されます。 リストからログインするユーザーアカウントを選択し、パスワードを入力します。 Windows に登録されているユーザーアカウントを表示します。 リストで選択されたユーザーアカウントのパスワードを入力します。



6 OK ボタンをクリックします。

手順 2 の画面に戻ります。



手順 4 で入力したキー名称が表示されています。

7

適用

ボタンをクリックします。

G-Lock の画面が閉じ、設定を有効にします。

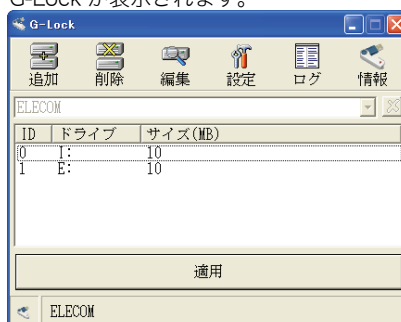
G-Lock のバージョンを表示する

G-Lock のバージョンを表示します。



Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindowsにログオンしてください。

- 1 本製品をパソコンのUSBポートに接続します。
- 2 タスクトレイに表示されているG-Lockアイコンをダブルクリックします。
G-Lock が表示されます。



- 3  ボタンをクリックします。
情報画面が表示されます。

- 4 バージョン情報を確認できます。

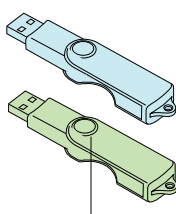


- 5  ボタンをクリックします。
情報画面を閉じ、手順2の画面に戻ります。

- 6  ボタンをクリックします。
G-Lock の画面が閉じます。

合鍵をつくるには

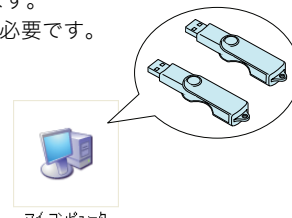
USB キーをなくしてしまったり、合鍵を作ることで複数の人数で USB キーを有効にしたいときなど、同じ機能を持つ USB キーを複製できます。
USB キーを複製するにはシリアル番号とパスワードが必要です。



後から購入した USB キー



ドライバインストール完了時に以前のシリアル番号・パスワードを入力



マイ コンピュータ

G-Lock は同じ USB キーと認識します

1 マスターキー(合鍵のための複製元となるキー)用のシリアル番号およびパスワードを用意します。

2 新しいUSBキーを購入します。



一度もパソコンへインストールされたことのない、新しい USB キーが必要です。KeyID は、一度入力すると変更できません。必ず KeyID を入力していない USB キーをご用意ください。

3 PCロック機能が有効になっている場合であれば、設定を解除し、Windowsを終了します。



マスターキーをパソコンから取り外していても、パソコンが使用できる状態にしてください。

4 マスターキーをパソコンから取り外します。

5 手順 2 で購入した新しいUSBキーをパソコンに接続し、Windowsを起動します。



Windows®XP/2000 の場合は、管理者(Administrator)権限を持つユーザアカウントでWindowsにログインしてください。

6 本製品添付のクイックセットアップガイドを参照して、手順 2 で購入した新しいUSBキーのドライバをインストールします。

7 シリアル番号の入力画面が表示されます。手順 1 で用意したマスターキー(合鍵のための複製元となるキー)用のシリアル番号およびパスワードを入力します。



手順 2 で購入した新しい USB キーに添付しているシリアル番号は使用しません。

8 OKボタンをクリックします。

これで、USB キーの合鍵が作成できました

G-Lock をアンインストールする

G-Lock をアンインストールする方法について説明しています。

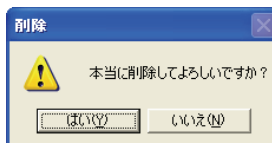


使用するパソコンにネットワーク経由でログインするドメインユーザーについて、G-Lock をインストールできますが、ログを表示したり、アンインストールはできません。ドメインユーザーのログインおよびログオフはログ機能により保存されます。G-Lock をアンインストールするときは、ネットワーク経由ではなく、アンインストールするパソコンを管理者が直接操作してください。

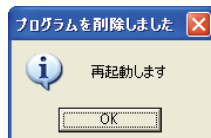
- 1 パソコンにUSBキーを接続します。
- 2 WindowsXPをお使いの場合は「スタート」-「コントロールパネル」の順に選択します。WindowsXP以外の場合は「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」の順に選択します。
コントロールパネルが表示されます。
- 3 「プログラムの追加と削除」をクリック (WindowsXP以外の場合はダブルクリック) します。
プログラムの追加と削除が表示されます。



- 4 リストから「G-Lock」を選択し、**変更と削除** ボタンをクリックします。
確認の画面が表示されます。



- 5、**はい(Y)** ボタンをクリックします。
アンインストールを実行します。



- 6 **OK** ボタンをクリックします。
パソコンが再起動します。

これで、G-Lock をアンインストールできました。

こまったときは

USB キーをご利用になるときのよくある質問についてまとめています。

USB キーをなくしてしまいました。以前作成したバーチャルディスクにアクセスするにはどうすればよいですか？

新しい USB キーをご購入いただき、以前の USB キーのシリアル番号とパスワードを使用してください。



USB キーを紛失してしまったときの用心のためにも、シリアル番号とパスワードは忘れないようにしてください。また、シリアル番号やパスワードをメモした場合、メモした内容を第 3 者に知られないようにしてください。

(以前の USB キーで使用していた)パスワードを忘れてしまった場合、新しい USB キーは、以前の USB キーとして複製できますか？

いいえ、以前の USB キーのシリアル番号やパスワードを忘れてしまった場合は、USB キーを複製できません。

インストールしたときと異なる USB ポートに接続すると、インストール画面が表示されてしまいます。

USB の仕様により、同じパソコンでも違う USB ポートに USB キーを初めて接続したときは、USB キーのインストール画面が表示されてしまいます。

あらかじめ USB キーを管理・設定する方がパソコンのすべての USB ポートに USB キーを接続し、認識させておくことをおすすめします。

パスワードを入力せず、シリアル番号だけで USB キーを使用できますか？

はい、使用できます。パスワードを忘れてしまう心配があるときはシリアル番号だけでも運用できます。セキュリティのためにも、シリアル番号とパスワードの両方を使用して運用することをおすすめします。

インストール終了後、USB キーが使用できません。

正しくドライバをインストールできたか確認してください。

わからない場合は、一度アンインストールを実行して、再度インストールしてください。

バーチャルディスクを CD-ROM などにバックアップできますか？

はい、バックアップできます。

バックアップしたドライブのイメージファイルを CD-ROM に保存してください。

バックアップしたイメージファイルは再度ドライブに復元(リストア)できます。

ひとつの USB キーでバーチャルディスクを何ドライブ作成できますか？

4 つまで作成できます。5 つ以上のバーチャルディスクを作成する場合は新しい USB キーを使用してください。

作成できるバーチャルディスクの最大容量はどの程度ですか？

WindowsXP と Windows2000 の場合は最大 4GB です。Windows98SE と WindowsMe の場合は 2GB になります。

正しい USB キーを接続しているにもかかわらず、PC ロック機能を有効にしてパソコンを再起動すると、パソコンがロックされてしまいました。

USB ハブに USB キーを接続していませんか？USB ハブではなく、パソコンの USB ポートに直接接続して使用してください。

パソコンの USB ポートに USB キーを接続して、Windows を再起動してください。

USB キーのインストールが完了しているパソコンに USB キーを接続しましたが、USB キーのパスワードやシリアル番号の入力が要求されません。どうしてですか

USB キーのパスワードやシリアル番号の情報は、USB キーに保存されます。このため一度設定したパスワードやシリアル番号はパソコンが変わっても再度入力を要求されることはありません。

Web ロックが有効ではありません

Netscape Communicator を使っていませんか？

USB キーの Web ロック機能は、InternetExplorer の 6.0 以降のバージョンのみサポートしています。それ以外の Web ブラウザでは、Web ロックは有効になりません。

グループのユーザー間の USB キーを識別するにはどうすればよいですか？

管理者として設定する USB キーや、一般の USB キーも同じ製品を使用しています。そのため見た目はわかりません。

G-Lock から USB キーに名前を付けるか、USB キーそのものにステッカーを貼るなどして識別してください。

他のパソコンで USB キーは使えますか？

はい、使用できます。使いたいパソコンにドライバと G-Lock をインストールしてください。

USB キーを接続してバーチャルディスクとして使用しているとき、操作を誤ってドライブのイメージファイルを削除してしまいました。どうすればよいですか？

リストア機能を使って、あらかじめバックアップ済のイメージファイルからリストアしてください。

本人が作成したバーチャルディスクのイメージファイルを、他人が削除できますか？

はい、削除できます。イメージファイルの中身は読めませんが、削除される可能性はあります。

バーチャルディスクに大切なファイルが入っている場合は、イメージファイルのバックアップをとることをおすすめします。

バーチャルディスクにアクセスできなくなりました

ハードディスクに保存されているバーチャルディスクのイメージファイルが破損していないか確認してください。イメージファイルが一部分でも破損してしまうと、バーチャルディスクのドライブ全体にアクセスできなくなります。

他のアカウントで作成したイメージファイルが読めない場合は、イメージファイルの保存場所に問題があることがあります。複数のアカウントで同じバーチャルディスクを使用する場合は、他のアカウントがアクセスできるフォルダに配慮して、イメージファイルを作成してください。現在使用中のアカウントでアクセスできていても、他のアカウントでアクセスできない場合はイメージファイルを使用できません。

ログが表示されません

ログオン機能が有効になっていますか？

ログオン機能を有効にしないとログが記録されずログが表示されません。